

「農」を軸に持続可能な文明への転換を

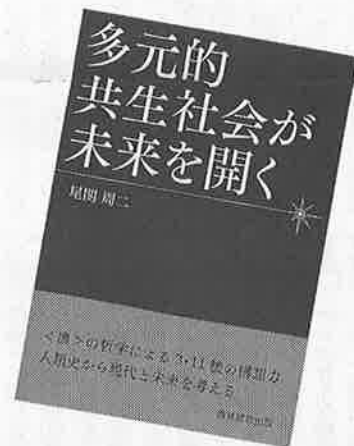
「共生」思想こそが未来を拓く

山田宏明

尾関周二 著

多元的共生社会が未来を開く

10・21刊 A5判182頁 本体2000円
農林統計出版



2011年3月11日の東日本大震災と東電の福島第一原発の爆発事故以降、極限まで物象化された資本主義的人間関係や人間と自然の関係、新自由主義を見直そうという動きが思想・哲学分野などで広まり、そのひとつのキーワードとして「共生」を強調する論者も増えているが、本書もそういう流れに属する一冊。「共生」の決め手として農業の見直し・復権を唱えていることが新機軸だ。

著者は社会学を専攻した東京農大6名譽教授で、総合人間学会副会長。近代文明のヒューマニズムを人間中心主義と批判して1970年ころから、自然との共生・共存を重視し、生産力第一主義からの転換を目指す「エコロジー」思想が欧米で台頭してきたが、さらにノルウェーの哲学者アルネ・ネス

は「フリープ・エコロジー」を提唱。従来のエコロジーの自然保護思想を批判して、「真の自然保護運動は、自然中心主義、即ち生態系中心主義でなければならぬ」と主張した。人間中心主義の抜本的な転換、生態系を人間文明より上位に置く立場だが、極端な反文明主義に陥り「エコ・フアンシズム」と批判を浴びる動きもあった。

著者は、マルクスの「労働は人間と自然の物質代謝」であるという立場を肯定し、このマルクスの思想はドイツの農学思想に起源があるとして農業に焦点を当てていく。

しかし、圧倒的に工業・大規模生産主導の近代資本主義の発達の中で、農業は「工業に付属する遅れた産業」という雰囲気が強まり、農業の在り方を論ずることは思想界や経済学の片隅に追いやられるようになった。農学者や一部のマルクス経済学者が論じているように、農業は本質的に資本主義の生産にはなじまず、また土壌や森林など自然環境の再生、生態系と水の保全といった役割も大きく、農産物の生産・販売だけに限定されない産業だ。工業のように「生産コストが全て」とはいかないのだが、米国の巨大なアグリカルチャービジネスは世界規模で

図書新聞

直接定期購読を

一年(48週) 12,000円
半年(24週) 6,480円
※送料・税込

毎週ご自宅までお届けいたします。はがき、TEL、ファックス、メールにて下記までお申し込み下さい。※海外での定期購読をご希望される方はご相談下さい。

◆お申し込み・お問い合わせ
〒101-0051東京都千代田区神田神保町2-34
(株)図書新聞 定期購読係
TEL03(3234)3471 FAX03(3261)4837
E-mail info@toshoshimbun.com
http://toshoshimbun.jp

農業生産の再編や遺伝子組み換えなどを強引に押し進めており、熱帯雨林の破壊や食物連鎖などの生態系を無視し続けている。著者は、「工業化社会のパラダイム」から「農」の発想を基礎にする社会への転換が必要ならなければならない」とし、具体的には再生不可能な地下資源を利用しつつも、自然生態系に即し、共生・循環する農的活動を基礎とする社会的労働へと転換することが重要だと主張する。これによって「持続可能な文明」を建設することができるという。

そして農業を軸に据えたい人類1万年の歴史を概括、国家の誕生や貨幣経済の発生なども農の立場から「解説」・「柄谷行人の生産の原理ではなく、交換の原理を軸にした資本主義の解明や、エマニュエル・ウォーラステインの「世界

システム論」など、マルクス主義的世界観・経済学を乗り越えようという思想家の「哲学的苦闘」も紹介している。狩猟社会時代のどこかで起きた「狩る者」と「狩られる者」の分裂が資本家と労働者、先進国と第三世界との分裂にまでつながっているとして、農を中心とした持続可能な生産社会の建設によって、こうした分裂が最終的に解消できるのではないかと述べている。やや抽象論に傾き過ぎているというくらいにはあるが、21世紀になっても混迷が拡大する一方の中東情勢や頻発する異常気象などを見ていると、こうした地球規模での「文明の転換」なしには人類は滅亡するのではないかとという気もする。農を軸にした新しい生産社会の建設に具体的に挑戦する時期が来ているのだらう。(作家 評論家)

文芸散策

企画・制作
お問い合わせ
03(6)88

「江戸川柳女の一生」



小野 眞孝
定価/1500円+税

「江戸川柳には庶民の暮しばかりが数多く見られる。……だから女性の生きざまを川柳を通してのも一興ではないかと思つたのである」(本文より)。ゆりかごから眠りまで。いつの時代も「女」数多くの川柳から、江戸時代の文藝として生き生きとした息吹を説

「赤い糸」みつけた



繪鳩 昌之
繪鳩 美知子
定価/1200円+税

仕事が違う私たちはよく「見合い」と聞かれましたが、私は「どちらでもない」と。見合いのあと数回のみならず、お互いの仕事もあやうくなりませんでした。毎週の手紙。気持ちに酔母のように働いて恋愛をさせていったのです。まるで本成熟成されるように。誰もがこう願う理想的な夫婦の姿を書き綴つ

「もしかして乳がん!? あなたの不安に答えます」



吉本 賢隆
定価/1600円+税

乳がんは早期発見・初期治療が運命を左右する。乳がん一筋30年の専門医に聞かされたことは肝に銘じておきた「プロフィール」東京大学医学部卒業。東京大学医学部附属病院、癌研究会附属国際医療福祉大学教授・同大学二病棟ター長を務める。この間、多数の癌外科手術を断行。断行を断行し、術式を数多く開発。乳癌外科で、乳房温存手術の普及に尽

「基礎のソフトボール基本から」



坂本 繁
定価/1300円+税

用具解説、攻守の練習、走塁のコツ対応など、長年高校の監督や審判してきた著者によるソフトボールの基礎を解説。細やかな競技解説のみならず、資質や対応にも言及。緻密な練習試合を有利に進めるサインの出し方、確かな経験に裏打ちされたテクニクからソフトボールを始める選手どちらにとっても嬉しい至極の

「腹背の敵 李舜臣対豊臣秀吉の戦い」



杉 晴夫
定価/1400円+税

李舜臣と豊臣秀吉。何かから何まで対主君・宣祖の理不尽な仕打ちにも拘わらず、かれの愛する民衆のために尽忠を遂げた。最初は主人信長にあり、後に信長が死んだ後、徳川無残な仕打ちを、遂行に走った秀吉。現代も両国間に凝りこもる戦いという観点から再度考証する。戦いの勝利者

第三回梓会出版文化賞贈呈式が、一月二四日に日本出版者協会で行われた。